

2019年12月8日

日本臨床検査自動化学会
2019年度第1回 国際交流委員会

日時：2019年11月22日（金） 12:00～13:20
場所：岡山コンベンションセンター 1階 111 控室
出席者：康東天、大川龍之介、萩原三千男
欠席者：（なし）
オブザーバー：三浦哲男、菊地良介
NCGM：飯山達雄先生、市川雅人先生

配布資料

- ・なし

委員長あいさつ

- ・日本臨床検査医学会・学術集会の忙しい中、第1回国際交流委員会にご参集頂いたことへの謝辞があった。
- ・現在、当委員会は委員3名ですが、新たな委員として国際医療福祉大学の工藤芳子先生と名古屋大学医学部附属病院の菊地良介先生に加わっていただく。正式には12月の理事会を経てとなるが、本日はオブザーバーとして参加をお願いした。
- ・この委員会は“実質的な国際交流をしたい”を基本的なモットーとしており、第一段として本日は、国立国際医療研究センターの飯山達雄先生と市川雅人先生にお出でいただき提案を受ける。

審議事項

1. 国立国際医療研究センターとの協力活動
 - 1-1 飯山先生から、PCを用いてNCGMの活動の展開について説明があった。
 - ・NCGMのベースは“グローバルヘルス”であり、大学の研究開発とは異なり厚労省の政策に基づいて各ナショナルセンターのすべきことが決まって、その枠内で政策研究(法律で規定)をしている。
 - ・NCGM インターナショナルトライアル部の主な活動地域はASEANとアフリカであり、他の研究グループや企業がASEANやアフリカに出向きたい時や、国として緊急性や公益性のある活動を支援している
 - ・NCGMの国際医療協力の主なミッションは、アンメット・メディカル・ニーズ(Unmet Medical Needs)やネグレクトド・ディゼイズ(neglected disease)であり、これまで

148 か国の現地に人材を滞在派遣しておりネットワークが非常に強い。

- NCGM の海外拠点は 8 か所あり、(臨床試験の主な相手国であるは、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナム、コンゴ民主共和国から招聘したスタッフが NCGM インターナショナルトライアル部で勤務しており、アジアの協力国には現地スタッフも配置しており、各国の薬事申請等のキーマンとコンタクトがとれる。
- コンタクト以外に現地調査にも出向いており、内閣官房の調査団として一昨年はミャンマー、昨年はエチオピア・ガボン・カメルーンの現地調査に行った。
- 途上国・新興国の薬事は、日本の薬事と異なり必要性や緊急性を含めて日本のデータをそのまま提示して承認を得ることができる場合もある。

1-2 NCGM 活動説明の後の意見交換

- 具体的には、一緒にどういうことを手始めに何をやっていくか。
まずお互いを知ることから。来年 1 月に開催される PMDA アジアトレーニングセンター (PMDA-ATC) の MRCT セミナーにアジア・アフリカ各国の規制当局の審査官が東京でトレーニングを受ける。また PMDA の研修プログラムに世代の若手リーダー候補となる人材を集め、トレーニングを実施する。一部 PMDA とはプログラムを共用しており、双方の研修者が一緒にトレーニングを受ける。
- NCGM の国際医療協力局が厚労省から委託されて行っている「医療技術等国際展開推進事業」に適宜応募し、日本の医療機器等のプロダクトをアジア・アフリカの相手国に持って行き、それを使って医療をトレーニングする。
国際医療協力局のホームページはコチラ↓ (次年度の推進事業説明は 12 月 24 日に予定されています。事前のお申し込みが必要となっております)
<http://kyokuhp.ncgm.go.jp/topics/2019/20191128134308.html>
- 検査機器、IVD 関連に特化して、ジェネラルまたは個別地域のニーズに特化した検査室を立ち上げて検査技術の指導を継続的に行う。(国によってレベル差が大きいため、国によって対応を変えていく必要もある)
- 技術的指導に加えて、院内検査の精度管理、データの解釈などをトータルに支援するのが本学会に相応しい。検査をトータル(精度管理/技術/解釈)にサポートするアンメットニーズ(Unmet needs)として何があるか検討する。

1-3 今後の活動

<活動イメージ>

- WG の代表者を各国から募ってテーマ(例えば、感染症/糖尿病/新規の項目/検査のトータルマネジメントなど)を一つ決めて協議していく。

<スケジュール>

- ・ 12月～翌1月にキーとなる国・先生を2～3か国訪問して大体の方向性を決めて、来年6月には正式WGで具体的なプログラムをディスカッションする。最先端ではなくボトムアップをする交流を目指す。

<活動のアプトプット>

- ・ 来年の大会時にWGの先生方を招聘して、進捗や今後の展開を提示する。

<当学会の強み>

- ・ 企業(JACLaS)と協働できて“産学連携”に軸足を置いている点である。例) 機器と共に先方に出向き、運営・管理等をアカデミアとして我々が継続的にサポートする。

<NCGM・飯山先生コメント>

- ・ 国策に従って日本部隊の一員として参加して貰えるなら大きな予算が期待できる。
- ・ 現在、国は“治験(薬)”という言葉を頻用する。治験には医療機器は含まれず当会としては不利、一方で日本の医療プロダクト(検査機器)が世界の医療に貢献できる。
- ・ 医療機器のグループとして、検査機器は日本の武器(もの凄く切れる刀)であることを伝えるチャンスを得るべきである。
- ・ 当会は、企業団とは異なり学会として公益性を提示できる。ストーリーの出し方としては、本邦と協力相手国への産業育成・医療への貢献できるストーリーを作る必要がある。
- ・ 先方の医療機関との繋がりが重要で、視察を通じて状況をつぶさに観て、学会として「ニーズを探す」ことも必要ではないか。

1-4 追加討議

- ・ 国によってレベル差が大きい。
→ どの国にアプローチするのか？ また誰にアプローチするべきか？
- ・ 学校関係協会の病理医にアプローチし、彼らが認めれば円滑に進められる。

今後の検討事項 [委員会を追加開催：11月23日(土) 15:30～16:20]

1. 来年(第52回大会)での国際シンポジウムの開催について

- ・ 大会期間中に、1日に1回・国際セッションを開催する。
- ・ 具体的には、本委員会主催のセッション/JACLaSによるセッション/企業による英語のランチョン

2. 会員制への移行とその説明会

- ・ 目的：寄付金による国際委員会基金から会員制(仮称、国際協力会員)へ移行を検

討する。某企業から強い要望があり、継続性を考えれば会員制の方が良いと考えられる。

- ・国際化推進活動内容と活動の安定的継続に関して、各企業と意見交換する会を年内に開催する。

候補日①：12月12日(木) 15:30～

候補日②：12月20日(金) 15:00～

以上